

鉄道橋梁の洗掘被害を未然に防止し、交通機能を確保

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要 要：河川増水時の橋脚被害による橋梁流出等を防止するための河床低下防止対策を実施。令和6年7月の豪雨では、鉄道の運転を取りやめるほどの降雨と河川増水が発生したが、対策工事を完了していたことにより橋梁流出を防止し交通機能を確保した。

対策名：58-1 豪雨による鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策<国土交通省>

- 実施主体：東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社
- 実施場所：山形県最上郡舟形町
- 事業概要：既設根固工が流出していた奥羽本線小国川橋梁における河床低下防止対策（根固工新設）
- 事業費：約0.7億円（令和3～4年度）
（うち5か年加速化対策（加速化・深化分）約0.7億円）



位置図

災害の外力、被害と効果

令和6年7月豪雨時の降水量（気象庁新庄観測所）

- ・日最大1時間降水量 68mm（7/25）
- ・日最大24時間降水量 389mm（7/25）

→いずれも過去最大降水量だったが、洗掘被害なし

5か年加速化対策における全国の既往最大規模の降雨により流失・傾斜の恐れがある鉄道河川橋梁の流失・傾斜対策の完了率（%）

R2年度	R3年度	R4年度
33	40	66



既設根固工の流出

施工前



根固工新設

施工後